

2022.3.26(日)丸亀市マルタス

藤原好二氏講演内容の復習

演題：「狛犬からみた見た丸亀の石工たち」 ～中村屋・和泉屋・阿波屋を中心に～

狛犬から何がわかるのか

郷土文化の多様性がわかる。狛犬は鳥居や燈籠に比べて、石工さんの個性がでている。

### 香川県の狛犬

最古：金刀比羅宮青銅製狛犬 宝暦 7 年（1757）花崗岩製台座は丸亀石工中村屋判左エ門

石造の最古：多度津町高見島祇園社 宝暦 11 年（1761）銘なし大阪の石工

### 1. 香川県の狛犬

約1500対を調査。

香川県最古の屋外設置狛犬



仲多度郡琴平町 金刀比羅宮  
宝暦7年(1757)  
請物師 徳州大坂住 長谷川久左衛門作/  
丸亀石工 中村屋 判左エ門

香川県最古の屋外設置石造狛犬



仲多度郡多度津町高見 祇園神社  
宝暦11年(1761)

情報は島に早く入っていたことが分かる。江戸時代の前半は、富の余剰拡大再生産に使われていた。後半は、寺社に奉納されるようになった。寺社の建て替えも増えた。狛犬奉納は、江戸期後半に多い。

奉納数の推移から、4回のピークが見られる。

- 1 回目 1850～1860 年代（嘉永～慶應）
- 2 回目 1900 年代（明治後半期）
- 3 回目 1920～1930 年代（昭和初期）
- 4 回目 1990 年代（バブル直後）

岡山と香川では、このピークにずれがある。経済的な地域性を反映しているのではと考える。

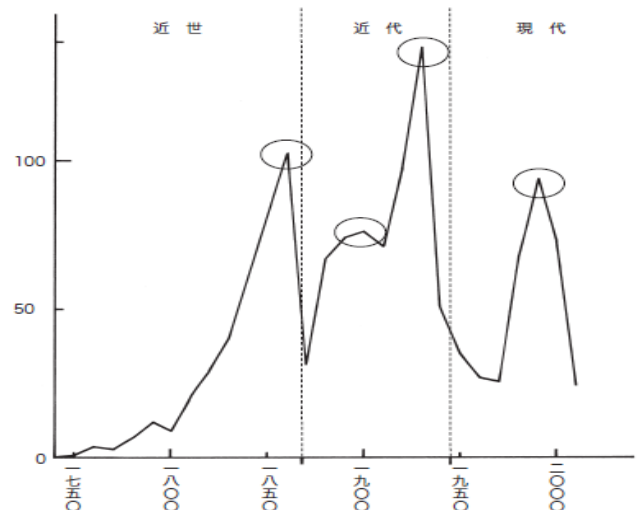


図1 奉納数の推移

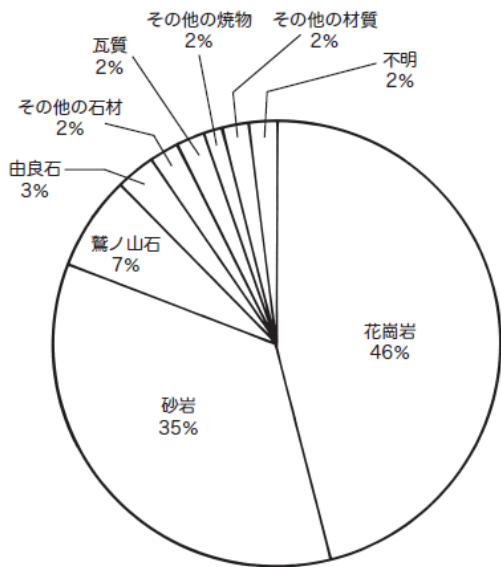


図2 材質の比率

### 狛犬の材質 グラフより

砂岩は江戸時代から明治まで

岡山にはみられない鷲ノ山石（輝石角閃石安山岩）

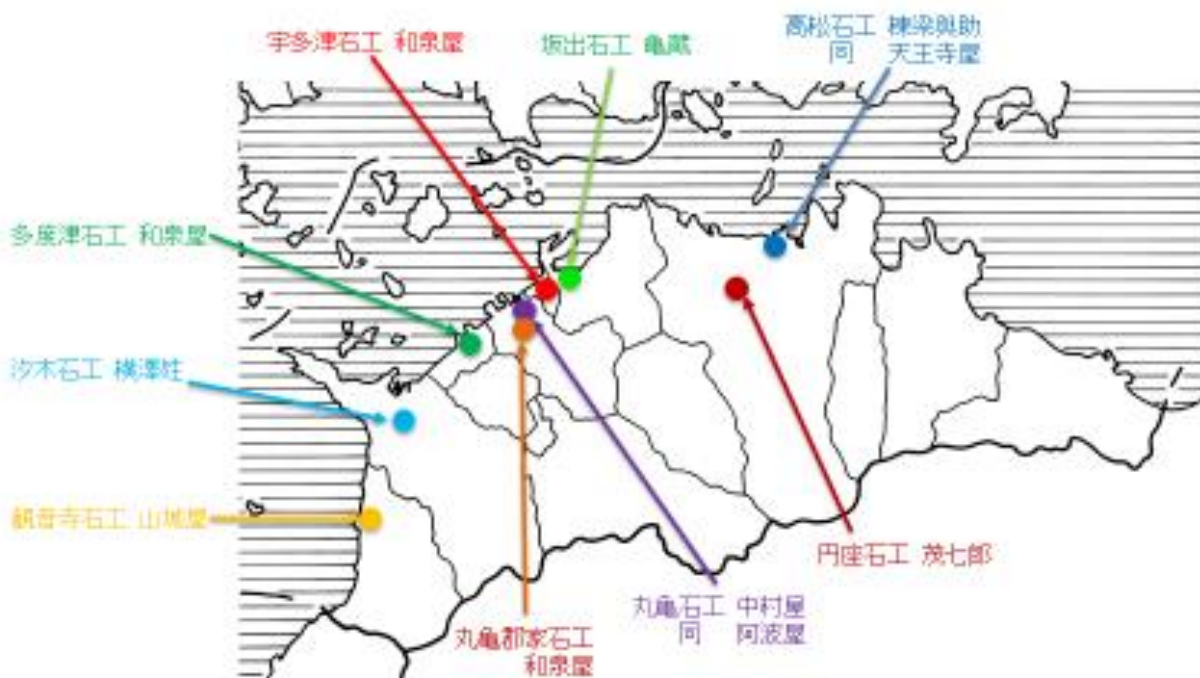
が明治～近代まで見られる

### 近世における主な讃岐石工 図4より

香川では、近世石工の活躍は、「西高東低」西に多い。港、港に石工がいた。庵治石工はでてこない。それは、東には大きな港町がなく、内陸部には寺社がなかったから  
西にはこんぴらさんがあり、丸亀多度津の石工が奉納物を作ったから

## 2. 丸亀の石工たち

近世の主な讃岐石工



(1) 丸亀石工中村屋半左衛門 6人(6代)いると推定する

- 1 18世紀第四半期
- 2 18世紀末
- 3 19世紀前半 中村屋半左衛門 藤原清品 棟梁を名乗った(讃岐で2人のうちの一人)
- 4 19世紀第2四半期 中村屋半左衛門 藤原正秀
- 5 19世紀第3四半期 中村屋半左衛門 藤原清重
- 6 19世紀第4四半期 中村屋 横澤半三

岡山県の高梁川沿いに中村屋の狛犬が4点ある。金毘羅さんの参拝者が運んだのだろう。

寛延～宝暦年間の半左衛門(初代?)



仲多度郡琴平町 金刀比羅宮  
宝暦7年(1757)  
鑄物師 藤原次郎住  
長谷川久左衛門制作  
丸亀石工  
中村屋 利左エ門



丸亀市南品町 寿徳院  
宝暦11年(1761)  
石工 半左衛門



丸亀市綾歌町 権度神社  
寛延3年(1750)  
石工丸亀 諸嶋住 半左衛門

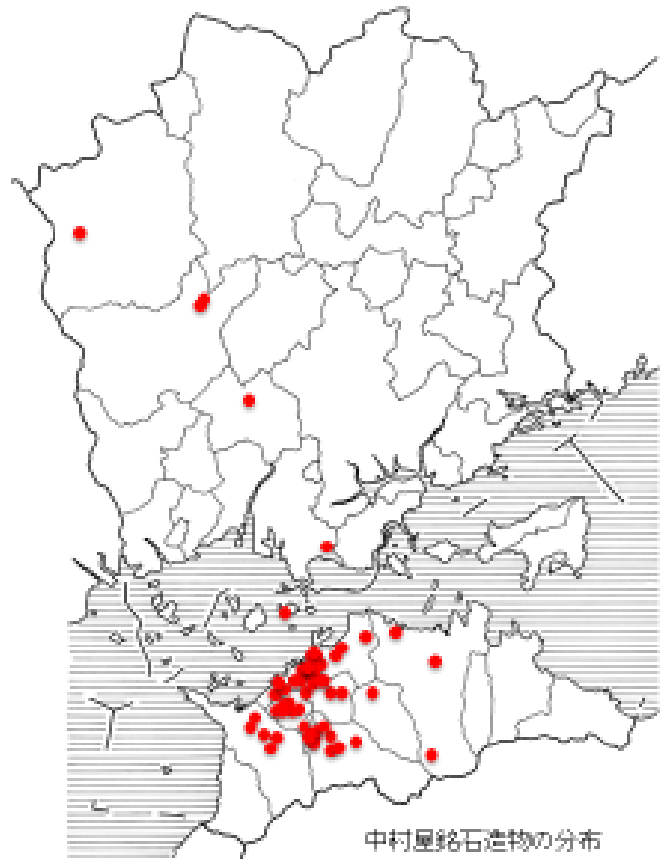
半左衛門 藤原清品(3代目?) その2



高梁市巨瀬町 明徳寺(虚空蔵宮)  
天保8年(1827)  
石工 丸亀 中村屋半左エ門  
藤原清品



丸亀市中津町 中津川(新幹社)  
天保11年(1840)  
石工丸亀 中村屋半左エ門  
藤原清品



中村屋銘石造物の分布

(2) 丸亀郡家石工 和泉屋荘七 (西讃型をはじめて作った石工)

西讃型とは、金比羅宮の天明元年(1781)「雲州松江 石工門兵衛」狛犬を模倣して作った狛犬。

始まりは、神野神社 文政 12 年 (1829)

「當町石工宮武莊七」

丸龜郡家石工 和泉屋莊七の狛犬



仲多度郡琴平町五條  
大井八幡神社  
天保7年 (1836)  
石工郡家 和泉屋莊七



丸龜市龜小町 垂水神社  
安政4年 (1857)  
石工 和泉屋莊七



普通寺市原田町 春日神社  
慶應4年 (1868)  
石工郡家 和泉屋莊七

(2) 丸龜郡家石工 和泉屋莊七  
～西讃型狛犬の創出～

琴平町 金刀比羅宮  
天明元年 (1781)  
雲州松江 石工門兵衛



出雲型狛犬

特徴

- ・長い垂耳
- ・突き出した鼻面
- ・先端が前に垂れ下がる尾
- ・方座がない
- ・円筒形の盤



西讃型狛犬



丸龜市郡家町 神野神社  
文政12年 (1829)  
當町 石工 宮武莊七

西讃型は、西側に多く見られる。

西讃型を彫った石工

丸龜石工 和泉屋莊七、丸龜石工 中村屋半左衛門、丸  
龜石工 阿波屋甚七、圓龜石工木下廣右衛門、多度津石  
工 和泉屋百次、西白方石工 青木屋喜三郎、宇多津石  
工 駒蔵



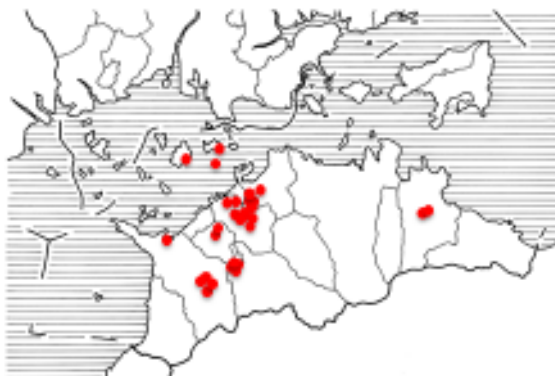
西讃型狛犬の分布

### (3) 丸龜石工 阿波屋甚七

寛政 12 年 (1800) から元治元年 (1865) までの石造物確認

金比羅宮の灯籠は 35 件、他に銘を残す。

狛犬は、いろいろなパターンを彫って、安定しない。



阿波屋甚七銘石造物の分布

(3) 丸龜石工 阿波屋甚七  
～金刀比羅宮の燈籠を制作～



仲多度郡琴平町 金刀比羅宮  
天保 15 年 (1844)  
石工丸龜 阿波屋甚七



丸亀石工 阿波屋甚七の狛犬



三豊市高瀬町佐段 長峰神社  
天保8年(1837)  
丸亀石工 阿波屋 甚七



観音寺市新田町 金安神社  
弘化2年(1845)  
石工丸亀 阿波屋 甚七



さぬき市寒川町神前 雷神社  
天保12年(1841)  
丸亀石工 阿波屋 甚七



丸亀市本島町牛島 池神社  
弘化2年(1845)  
石工丸亀阿波屋甚七



(4) その他の丸亀石工 (近世)

石工 木下廣右工門



善通寺市金蔵寺町 新羅神社  
弘化4年(1847)  
石工 木下廣右衛門

泉屋 金蔵



丸亀市山北町池田 天満宮  
弘化4年(1847)  
石工丸亀 泉屋金蔵



仲多度郡等平町 金刀比羅宮  
安政4年(一八五七)  
石屋 細工 佐助  
丸亀石工 木下廣右工門



丸亀市郡野町東分 吉岡神社  
嘉永元年(1848)  
石工 泉屋 金蔵

(5) その他の丸亀石工 (近・現代)

石工 木下徳平



綾歌郡保良町羽床下 奥谷神社  
明治15年(1882)  
石工 木下徳平

四宮千香



丸亀市山北町 山北八幡神社(鳥居前)  
昭和35年(1960)  
石材彫刻 当市 四宮千香 / 当市 石工 丸岡蔵



丸亀市山北町 山北八幡神社(山北天満宮前)  
明治21年(1888)  
石工 木下徳平



三豊市詫間町詫間 浪打八幡神社(拝門前)  
昭和35年(1960)  
丸亀市 石工 四宮千香

### 3 現代の狛犬

岡崎型狛犬：大正年間に愛知県の岡崎石工 6 代目酒井屋孫兵衛が創出した

香川県最古の岡崎型は石清水八幡神社（高松市香川町大野 昭和 5 年（1930）

昭和 50 年代以降増殖。現在 230 対を超えている。

庵治石工も同形の狛犬を制作し始める。

#### 3. 現代の狛犬

##### 1 岡崎型狛犬の流入



丸亀市広東町釜の越 幸神社  
昭和13年(1937)



丸亀市柞原町 素盞神社  
昭和10年(1935)  
高松市外牟礼町久通り 藤野石工芸



丸亀市川西町北双子山神社  
平成30年(2018)

まとめ

- 近世(江戸時代)に置いて、讃岐の石材加工の中心地は丸亀である。
- 中村屋半左衛門は狛犬、阿波屋甚七は金刀比羅宮に灯籠を多く制作しており、ある程度の棲み分けが認められる。
- 近代（明治・大正）以降、近世の石工は徐々に衰退し、新たな石工が台頭する。

ということでした。

このほか、塩飽島の狛犬の写真を見せていただきました。レジュメとパワーポイント資料を基にまとめてみました。

山西輝美